

	情報発信	コミュニティ形成・連結	プロジェクト創出	プロジェクトのショーケース
アウトプット(事業量)	目標・事業計画(全体) 情報発信 700件 [100]	① イノベーション人材のコミュニティ形成 72回 [88] 学生、VC、起業家、支援機関、企業対象としたイノベーション人材のコミュニティ形成のためのセミナー等 ② 海外ワークショップ(学生、起業家) 1回 [2]	① (新)ニーズ顕在化プロジェクト構築プログラム 3回[-] ② (新)アイデアソン 2回[-] ③ ハッカソン(ものアプリ、ソフト系) 6回[6] ④ オープンイノベーションマッチング 4回[4] ⑤ (新)ピッチイベント 35回[-]	● 国際イノベーション会議開催 プロジェクトのプロモーション機会創出 参加者: 650人以上 [650人以上]  国際会議 1回 [1]
	実績(上半期) ● イベント告知 日本語 120本、英語 2本 ● イベントレポート 日本語 5本、英語 7本 ● 起業家紹介等 日本語 6本、英語 6本 ● ニュース 日本語 15本、英語 8本 ● HP新コンテンツ 日本語 14本 ● FB投稿 日本語 130本、英語 23本 ● メルマガ 12本、DM24本、プレスリリース 2件 (うち、他自治体での発信7、他自治体案件発信6) 計 374[697]	① イノベーション人材のコミュニティ形成 88回 [119] ② 深セン、シリコンバレー(予定) 1回 [2] ・新セン:H28年7月12日~7月17日実施 3人[一人] ・シリコンバレー:H29年2月実施予定 一人 [39人]	① 5回 [-] ② 1回 [-] ③ 3回 [11] ④ 3回 [4] ⑤ 22回 [-]	● 国際イノベーション会議「Hack Osaka 2016」を平成29年2月9日(木)に開催予定  ● 参加者数 一人[602人]
		イベント参加者数 6,500人以上 [3,800]	イベント参加者数 6,803人 [10,531] (別途、拠点来場者 2,050人 [3,552])	
		※合計 8,853人 [14,083]		
アウトカム(成果)	目標・達成水準(全体) 国内外のメディアに取り上げられる 定量的指標 (開設(H25)~30年度累計) ① HPのユーザー数 326,000 [H25~27計 100,000] ② FBの「いいね」数 8,300 [ " 4,000] ③ メルマガ登録者数 22,000 [ " 10,000] 定性的指標 ● メディア掲載数及びメディアによる評価	起業・イノベーション創出を担う人材を輩出する多様なコミュニティの活動が活性化している 定量的指標 (開設(H25)~30年度累計) ① 会員制度(Osaka Hackers Club)登録者数 1,000 [H25~27計 600] ② Osaka Hackers Club 会員(プレイヤー・パートナー)が持つ情報発信対象者数 33,000 [H25~27計 9,000] ③ (新)OIHを拠点に活動するコミュニティ数 1[-] ④ (新)外部団体との連携活動 1[-] 定性的指標 ● コミュニティの形成が促進されている ● 多様なコミュニティが参画している ● グローバルネットワークが形成されている	イノベーション創出に資するプロジェクトが具体化している 定量的指標 (H28~30年度累計) ① 事業化プロジェクト創出・推進支援件数 150件 [H25~27計 115] (投資を受けたプロジェクト(調査回答分)25億円 [H25~27計約 17億円]) ② (新)プロジェクト創出をめざすチーム組成 1件 (事業化定義) ● 守秘義務、共同研究等契約関係、ソフトウェア等における試作版の公開、資金調達に向けた具体的アクション ● スーパープロデューサーが認定したもの	国内外から注目度が高いプロジェクト発表の場として、国際イノベーション会議が評価される 定量的指標 ① 海外関係からの参加者数 100人程度 [100] ② メディアでの掲載数 10件以上 定性的指標 ● メディアによる評価内容 ● YouTube、Facebookの情報発信効果
	目標設定の考え方 平成27年度の実績を勘案して設定している	平成27年度の実績を勘案して設定している	25年~27年度の3ケ年で、プロジェクト創出支援100件を目標。27年度の目標50件を28年~30年度に継続	時宜にあったテーマ設定や効果的な情報発信を行うことで、少なくとも昨年度並みの成果を設定している
	実績(上半期) 定量的指標 (H28~30年度累計) ① 202,073 [H25~27計 176,168] ② 5,243 [ " 4,652] ③ 12,813 [ " 11,051] 定性的指標 ● WEBメディア掲載 18回 [56] ● 新聞・雑誌掲載 3回 [53] ● テレビ放映 1回 [7]  ● 今年度から実施しているアクセラレーションプログラムや大阪府、神戸市等でのベンチャー支援など、昨年度から関西においてベンチャー支援が盛んであり、それが注目される中で、OIHもメディアに取り上げられている。	定量的指標 ① 675人(プレイヤー476人、パートナー199人) [574(417、157)] ② 24,756人[14,958] ③ 4団体[-] ④ 3事業[-] 定性的指標 関係先とネットワーク構築  ● ベンチャーコミュニティ、Code for Osaka等新たなコミュニティを誘致。 ● 経産省のプロジェクト「始動 Next Innovator プログラム」の第1期からの有志メンバーが、関西の大企業新規事業担当者に対してメンタリングを行う事業をOIHと連携して実施。	定量的指標 ビジネスプランコンテストや、プログラムでの成果発表等を通じて形成されたチームの状況の把握に努めている。 ① 一件 [53] ② 4件 [-]	定量的指標 ① 外国人参加者数一人、比率 -% [87/602で14.5%] ② 一件 [23件] 定性的指標 ・Ustream視聴者数: 一件 [585] ・Facebook投稿: 一件 [34] ・Facebookいいね: 一件 [141]他  ● 国際イノベーション会議は、平成29年2月9日(木)にコングレコンベンションセンターで開催予定。 ● テーマ:(仮)「イノベーション・デザイン」 ● キーノート:ニック・スタージ氏(Director for Engine Shed)、グローバルチャレンジャー・土屋尚史氏(GEO of Goodpatch) パネルセッション「(仮)What is Open Innovation City Osaka」他 ● インターナショナルピッチコンテスト:登壇者募集中サブ会場では昨年に引き続きスタートアップショーケース(展示ブース)のほか、新規で学生Pitch Contest及びHardware Cup(ピッチバグ開催の予選)を開催予定。

<p>自己評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●情報発信目標は、過去実績を踏まえて上方修正したが、それをも上回る勢いで発信に取り組んでいる。</li> <li>●本年前半は、市長が OIH のイベントに登壇し、また初の海外出張にサンフランシスコ市、シリコンバレーを訪問するなど、OIH 認知度向上や本市のベンチャー支援を重視する姿勢を発信することができた。</li> <li>●アウトカムも目標達成に向けて堅調であるが、これが持続できるよう引き続き様々な機会を通じて新規開拓に取り組む。</li> <li>●地域間連携の一環として、周辺の自治体と広報協力関係を構築し、大阪市以外のスタートアップ等に OIH の取組みを知っていただける機会を増やしている。</li> <li>●海外との連携事業を下期は多く控えており、英語での PR を強化が必須と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外部団体との共催イベントの誘致に成功しており、イベント数、イベント参加者数ともに順調。イベント開催数は、上半期ですでに年間計画数を超えている。</li> <li>●大阪ハッカーズクラブの会員数は前年度目標に達しなかったが、今年度は比較的順調に伸びている。これを維持するため、会員のメリットを感じてもらえるよう支援等を充実させていく必要がある。</li> <li>●ベンチャーコミュニティ、Code for Osaka 等新たに誘致したコミュニティとの関わりからプロジェクト創出につなげる取り組みも必要。</li> <li>●「始動」メンバーとの連携により、これまで手薄だった大企業内部でのイノベーション創出につながる事が期待できるが、OIH がさらにどのような支援を行えるかが課題。</li> <li>●IT エンジニアが属するコミュニティとハッカソンを実施した。多数のエンジニアを取り込む好機であり、OIH への誘致をめざしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●起業家人材を増やすため今年度から開始した、学生等を対象とした教育事業(ニーズ顕在化プロジェクト構築プログラム)等において、プロジェクトに取り組むチームが生まれている。事業化に至るよう適切なタイミングで適切なフォローを継続するよう努める。</li> <li>●今年は、上期は深セン、下期はフランス、オランダ等との共催でピッチイベントを開催することとなり、海外に挑戦するベンチャー、海外から本市に来るベンチャーを増やしていきたい。</li> <li>●<b>別委託事業</b> 第1期シードアクセラレーションプログラムに参加した10社は、4か月の支援により資金獲得や事業プランの改善等の成果があり、今年度のプロジェクトとしてカウントする予定である。</li> </ul>	
-------------	--	---	---	--